

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176100343		
法人名	株式会社ウェルフェアクリエーション		
事業所名	ソレアド幸手		
所在地	埼玉県幸手市幸手3799-8		
自己評価作成日	平成22年4月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成22年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社は1ユニットで定員9名しかいませんので職員と共に我が家はちょっとした大家族と変わりないため、一つ屋根の下で家族同様に接し、愛情を持った介護に取り組んでいます。利用者の尊厳を守りながら、その人らしく生活できるようにと支援しています。利用者の立場に立って考え、思いやりを持って接したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者本位で明るく、暖かく、安らぎのあるケアの提供が行なわれている。
 事業所理念が職員全員に徹底され、利用者・職員共に明るく元気でよく笑い、歌い、のびのび生活されている。また、職員の利用者に対する温かな気持ちから、「皆で町に出かけましょう」の声かけや庭園での外気浴など、利用者が戸外で気持ち良く、生き生きと過ごせるよう声かけや支援が行なわれている。
 ・全社的な研修システムが確立し、ケアサービスに活かされている。
 新人研修やリーダー研修など各階層ごとの研修システムが整備され、職員のスキルアップのための全社的な取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有して意識付けし毎日の朝の申し送り時に読み上げ確認している	新人研修時に代表からの説明があり、全体会議においても理念を共有化され、利用者本位で明るく、暖かく、安らぎのあるケアの提供が行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との交流や地域行事に参加し交流するように努めている	町内会に加入し、地域清掃活動や歩け歩け大会などイベントに参加されている。また、高校生の介護体験の受入れ、小学校や地域ボランティアとの交流など地域との関わりあいに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職場体験など協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や改善点などについて助言をもらいサービス向上に努力している	定期的に開催され、事業所からの報告のほか、参加者からも積極的に意見・提案がなされ、事業所運営に活かされている。非常災害対策をテーマとした会議も開催され、火災予防対策についての検討がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を強めてサービスの向上に活かしている	一部、生活保護受給者の入居もあり、市担当者が頻繁に来訪されるほか、事業所からも報告・相談や事務手続きの機会に出向くことで、コミュニケーションが図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで話し合い身体拘束をしないケアを実践している	法人全体でのリーダー研修や事業所の全体会議で身体拘束に関する理解を深める勉強会が行われ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや研修に虐待防止について話している。職員一同注意している。職員のストレス解消に努め言葉遣いに注意し利用者の相談を受けたり気配りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や話し合いを行い支援するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際時間をかけ事業所のケアに関する考え方も説明し家族の理解、納得の上同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の会話や表情の中から読み取るよう努め電話や面会時に意見を聞いてケアの運営に活かしている	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは面会時やイベント時に意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にミーティングを行い意見や提案を効くようにしている 施設外で個別に会ったり職員が話しやすい雰囲気づくりを心がけている	リーダー研修時や事業所での全体会議で意見・提案が求められている。また、職員個別での機会も設けられ、利用者の個別ケアの見直し、庭園の有効活用案などが提案され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力、勤務状況を把握し処遇への反映向上をもって働けるよう職場環境条件の整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は常に自ら管理者や育成に努めている 実務に支障をきたさないように研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学会で人材の意見や経験をケアに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止めたり本人の声に耳を傾けたりしながら関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを受け止めたり家族の声に耳を傾けたりしながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所だけで抱え込まないで必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持ちお互いが協働しながら和やかな生活が出来るように雰囲気作りや声掛けをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも情報交換し良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所した際にスムーズに会話ができるように支援している	入居前からの各種サークル仲間との定期交流、馴染みの美容院やお店での買い物、そのほか、住み慣れた所有マンションを定期的に確認に出かけるなど関係継続への支援が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係でいられるように職員が間に入り円滑になるように働きかけている また独立しないように声掛け誘導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当無し		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けに把握に努めている 言葉や表情などからその意見や希望をそれとなく確認するようにしている	思いや意向の把握が難しい利用者については、日頃の関わりの中で、眼をかけ、声をかけ、仕草や表情などから汲みとるよう努めている。また、利用者の生活歴を振り返るなどの取り組みが行なわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人や家族から経歴を記録して聞き取るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握すると共に行動、動作から感じ取り把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させている カンファレンスを行い職員全員で意見交換を行っている	利用者や家族からは思いや意見を聴きとり、関係する職員全員でカンファレンスを行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子を記録し申し送り等で職員間の情報共有を徹底し介護計画の見直しに実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対して臨機応変に支援してサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して有効に活用し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携して定期的を受診、往診に対応している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の受診を支援されたり、往診に来てもらうなど、複数の医療機関との連携を図りながら受診を支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係を密にして適切な受診、往診や適切な看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退所時、本人、家族、病院関係者と情報交換や相談に努めて支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族より意向を確認し主治医と話し合い事業所での対応を十分に説明、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるよう話し合いのもと、意思確認書を取り交わし、方針を共有し取り組まれている。定期的に看取りに対する研修が実施され、看護師の配置など体制整備もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を行い発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している 消化器の使い方など実践している	全社的な取り組みとして、毎月定例での防火管理者会議が行われ、事業所としても年2回の避難訓練を実施し、夜間の発生を想定しての訓練にも取り組まれている。	災害時、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、避難訓練への地域住民の参加と協力員の確保に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライドを傷つけないように言葉遣いなど介護職員の心得の研修をして再確認している	ロールプレイングを中心としたリーダー研修が全社的な取り組みとして行われ、事業所内の研修にも活かされている。職員間でも利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや行為には互いに注意し合うなど取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を把握して自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは設定しているが利用者の生活リズム、ペースにあった過ごし方を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意見を尊重し髪型や服装もその人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参加できる利用者は食事の準備や片付けを一緒に行うよう取り組みをしている	利用者それぞれの力に合わせ、料理の準備や調理、後片付けなど職員と共に行っている。鮮魚を多くとり入れたメニューのほか、庭園での野菜づくりも行なわれ、新鮮な野菜が提供されている。また、まぐろの解体ショーなども楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日チェック表にて食事や水分量を確認している また大きさや料も一人一人に合わせている 体重測定も毎月行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施して本人の力に応じたケアをし清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし排泄表にて職員が時間を見てさりげなく声掛けしトイレで排泄するように支援している	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により便秘の日数を確認し申し送りにて職員が共有し薬による調整を行ったり消化の良い食べ物を提供したり体操やマッサージなどを実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日や時間などは決めているが個人のペースに合わせて支援している	入浴日や時間は設定されているが、利用者の希望に沿った支援をされている。また、体調不良で入浴できない場合は、足浴や清拭など状況に合わせた対応がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間で話し合いその方に合う生活リズムを考え出来るだけ日中は活動していただき安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容、目的、副作用も理解して状態の変化を確認し服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事をしていただき役割を担っていただき嗜好品、楽しみ、気分転換の支援を行っている 職員はその都度感謝の言葉を伝えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き外出支援を行い気分転換を図っている	「皆で町へ出かけましょう」の方針のもと、積極的な外出支援が行なわれている。また、利用者の希望に沿い買い物などの個別支援も行なわれ、季節ごとのお花見会や家族と一緒に日帰り旅行なども楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方はお金を所持している 職員と買い物に出かけるなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の片野希望など随時電話や手紙は自由にできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた物などを飾ったりしている フロアにあるテレビ音や外の光など配慮している	利用者にとって不快や混乱を起こさぬような配慮と季節感を採り入れた共用空間づくりがされている。広いリビングスペース2ヶ所にソファが置かれ、利用者同志のおしゃべりやゆったりとした時間を楽しんでもらえるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫し気のあった利用者同士過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物を置いたり本人が落ち着いて過ごせるように工夫している	使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれているほか、好みのカーテンやギターなども持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を作らないようにし、また余計な物を置かないようにしている		

(別紙4(2))

事業所名 ソレアド幸手

目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる対応ができる様に地域との協力体制を築いていく。	・災害時地域住民の協力を得て速やかに避難ができる。	・避難訓練への地域住民の参加依頼 ・運営推進委員会の開催による施設の理解と協力の依頼 ・イベントの告知による施設のイメージアップと協力員の確保	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。